# 私が携わった情報システム開発プロジェクトについて

## 情報システムの目標と特徴

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステム（以降、旧システム）を、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。Ａ社は全国に数百件の代理店をもち、各代理店は新しいＷｅｂシステムを利用して、保険の申し込みの登録や、情報変更などを行う。本開発の総開発工数は約１５０人月、開発費用は約１．２億円である。工期は１年間。約８ヶ月で製造、結合テストを終え、続く４ヶ月で総合テスト、運用テストを行う。以上を踏まえ、当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社が受注した。私はＢ社の社員であり、本案件のプロジェクトマネージャに任命された。

## 品質実績値が目標範囲を逸脱した工程での評価指標とその目標範囲

設計工程において、ある設計書のレビュー指摘密度が目標範囲を上回った。設計工程の品質目標としては、品質指標値を社内のナレッジから適用し、指標値から乖離１０％以内を品質目標とした。

# 品質実績の分析について

プロジェクト推進中は、定めた評価指標の実績値によって成果物の品質を評価する。特に実績値が目標範囲を逸脱しているときは、その原因を分析して特定する必要がある。

## 実績値が目標範囲をどのように逸脱したか

特定の設計書について、顧客とのレビューでの指摘密度が目標範囲を５０％上回った。指摘内容には「必要な機能が足りない」という根本的かつ重要なものが含まれていた。

## 実績値が目標範囲を逸脱した原因の分析と原因の特定

指摘内容を調べると、旧システムには充足されており、新システムでも必要な機能であるにも関わらず設計されていない状況だった。さかのぼると要件定義でも欠落していた。本来このようなことがないよう、事前に旧システムの設計書や操作手順書を受領し、新たに導入するパッケージソフトとのフィット＆ギャップ分析を実施していたはずだが、実は受領したドキュメントが全体ではなく、一部であったことが原因であった。

## 影響の分析

影響範囲を特定するため、専門の分析チームを編成し、再度フィット＆ギャップ分析を開始。ドキュメントは再度受領したが、そもそもドキュメントは実装されたシステムと整合性がとれない場合があることから、なるべくシステムそのものとの比較を行うことが重要であると考え、旧システムの検証環境やソースコードを利用して、新たに導入するパッケージソフトとのフィット＆ギャップ分析を再度実施し、要件定義や設計が欠落している機能を特定した。

# 特定した原因と見直し策などについて

## 特定した原因への対応策、再発防止策及びこれに伴い見直した内容

機能欠落の根本原因はあらゆる開発プロセスで参考にすべきドキュメントの網羅性確認を怠ったこと点であるため、チームリーダに全プロセスで参考にしているドキュメントの網羅性を再度確認させるとともに、この網羅性確認を各工程の実施要領に加え、運用を開始した。結果的に欠落していた機能は少なく、全体スケジュールの見直しは不要だったが、再発防止のため、チームリーダをより優秀な人材に変更し、新たに成果物確認を担当する要員を追加で配置した。

## 実施状況の監視方法

各工程実施において参考としたドキュメントの内容、出元、品質に加え、網羅性の確認方法について、進捗会議でチームリーダに報告させ、妥当性を確認するようにした。

以上